

北海道大学病院および共同研究機関に通院・入院された患者さん
またはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報や検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

【研究課題名】 中枢神経系疾患における IL-6 アンブを介した病態発症機構に関する研究

【研究機関名・長の氏名】 北海道大学病院 病院長 南須原 康行

【研究代表者名・所属】 村上 正晃・北海道大学遺伝子病制御研究所大学院医学院分子神経免疫学教室・教授

【解析施設】 北海道大学遺伝子病制御研究所大学院医学院分子神経免疫学教室

【共同研究機関名・研究責任者名】

九州大学大学院医学研究院神経内科学 磯部 紀子
大阪大学大学院医学系研究科小児科学 青天目 信
札幌医科大学医学系研究科脳神経外科 三國 信啓
社会医療法人 延山会 西成病院 河口 義憲
名古屋大学大学院医学研究科精神疾患病態解明学 尾崎 紀夫
さっぽろ神経内科病院 深澤 俊行
北見赤十字病院 永嶋 貴博
北海道医療センター 新野 正明
東京都健康長寿医療センター 齊藤 祐子
東京有明医療大学 鍼灸学科 坂井 友実
手稲病院 院長・理事長 澤山 浩之
第一三共ヘルスケア株式会社 杉山 大二朗
社会医療法人医仁会 中村記念病院 油川 陽子

【外部委託解析機関名・研究責任者名】

東京科学大学 難治疾患研究所 バイオリソース支援室 高岡 美帆
公益財団法人かずさ DNA 研究所 遺伝子構造解析グループ 長谷川 嘉則
大阪大学 産業科学研究所 バイオナノテクノロジー研究分野 谷口 正輝
大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 分化制御研究室 黒崎 知博
量子生命科学研究所 次世代量子センサー研究チーム 五十嵐 龍治

量子生命科学研究所 量子免疫学グループ 田中 勇希
自然科学研究機構 生理学研究所 分子神経免疫研究部門 長谷部 理絵
理化学研究所生命機能科学研究センター 無細胞タンパク質合成研究チーム 清水 義宏
北海道大学 大学院情報科学研究院 メディアダイナミクス研究室 長谷山 美紀
株式会社池田理科 曾我部 征範
フォーネスライフ株式会社 加藤 博樹
東京都医学総合研究所 体内時計プロジェクト 吉種 光

[研究の目的]

慢性炎症性疾患の検体を用いて炎症病態を詳しく調べ、慢性炎症性疾患の治療法の向上に役立てるためことを目的としています。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

① 北海道大学病院、名古屋大学医学部附属病院、北海道医療センター、東京都健康長寿医療センター、東京有明医療大学で2000年1月～2024年7月5日の間に中枢神経系疾患（てんかん、パーキンソン病、多発性硬化症、視神経脊髄炎スペクトラム障害、MOG抗体関連疾患、原田病、脳炎・髄膜炎、アルツハイマー病を含む認知症、もやもや病、統合失調症、うつや双極性障害などの気分障害、不安障害、正常圧水頭症、精神症状を伴うSLE、片頭痛を含む頭痛、及び上記が疑われる症例）の治療を行った患者さんで、研究目的で検体を保管されることに同意された患者さん

② 2016年11月15日以降北海道大学病院脳神経内科に通院していた患者さんで、「難治性疾患の発症素因および病態解析研究（医16-031）」において、倫理審査委員会の承認を得た他の研究に余剰検体を使用しても良いとの包括同意を得て検体を保存している患者さん

③ 2020年2月25日から2021年2月28日の期間に北海道医療センター、さっぽろ神経内科病院に通院または入院していた患者さんで、「多発性硬化症における髄液バイオマーカーの研究（2020-2-5）」において、倫理審査委員会の承認を得た他の研究に余剰検体を使用しても良いとの包括同意を得て検体を保存している患者さん

④ 2010年4月1日から2029年9月30日の期間に北海道大学病院脳神経内科に通院または入院していた患者さんで、「神経疾患の診断及び進行度評価に役立つバイオマーカーの探索に関する研究（承認番号:自009-0316）」において、倫理審査委員会の承認を得た他の研究に余剰検体を使用しても良いとの包括同意を得て検体を保存している正常圧水頭症の患者さん

⑤ 北海道大学病院精神科神経科、神経内科、脳神経外科、てんかんセンター、札幌医科大学、名古屋大学医学部附属病院、大阪大学医学部附属病院、九州大学病院、西成病院、さっぽろ神経内科病院、北見赤十字病院、北海道医療センター、東京有明医療大学、

手稲病院、中村記念病院で、研究実施許可日以降にてんかん、パーキンソン病、多発性硬化症、中枢神経系疾患（てんかん、パーキンソン病、多発性硬化症、視神経脊髄炎スペクトラム障害、MOG 抗体関連疾患、原田病、脳炎・髄膜炎、アルツハイマー病を含む認知症、もやもや病、統合失調症、うつや双極性障害などの気分障害、不安障害、正常圧水頭症、精神症状を伴う SLE、片頭痛を含む頭痛、及び上記が疑われる症例）の治療を行う患者さんで、この研究に参加されることに同意された患者さん

⑥ 2010 年 4 月 1 日から 2025 年 7 月 31 日の期間に北海道医療センターにおいて、診療目的で試料を保管し、本研究参加への同意取得時に多発性硬化症、視神経脊髄炎スペクトラム障害で通院していた患者さん

⑦ 北海道大学病院において、2021 年 3 月 1 日から 2026 年 4 月 30 日の期間に通院又は入院中であった中枢神経系疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎スペクトラム障害、MOG 抗体関連疾患）の患者さんの中で、お亡くなりになった後にご遺族の承諾のもとで病理解剖（剖検：ご病気の原因や経過を詳しく調べるために行う解剖）が行われ、その際にいただいた組織が北海道大学大学院医学研究院統合病理学教室に保管されている方

○利用する検体・カルテ情報

検体：組織検体、血液検体、髄液検体、血清、血漿、剖検検体から作製されたパラフィンブロックおよび切片（パラフィンブロックは組織をろうのような材料を使って固めたもので、その固めた組織を薄く切って顕微鏡用のガラス板にのせたものが切片です）。

基本情報：年齢、性別、最終観察日、術後転帰

疾患情報：疾患名、手術名、治療内容、再発の有無、病理組織学的所見など

その他検査情報：血液生化学的検査結果（肝機能（T-Cho、T-Bil、D-Bil、LDH、GOT、GPT など）、画像検査所見（CT、MRI、エコーなど）

上記の検体は、病態重症度との相関性を解析するために各機関から北海道大学に集められたのち外部委託解析機関および名古屋大学、九州大学に宅配にて送付します。

上記のカルテ情報は、解析のために外部委託解析機関および名古屋大学、九州大学、札幌医科大学附属病院に電子的配信で送付します。

[研究実施期間]

実施許可日～2030年3月31日（登録締切日：2029年9月30日）

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報・検体を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡くだ

さい。

[連絡先・相談窓口]

北海道大学遺伝子病制御研究所大学院医学院分子神経免疫学教室

教授 村上 正晃

北海道札幌市北区北 15 条西 7 丁目 電話 011-706-5120 FAX 011-706-7542